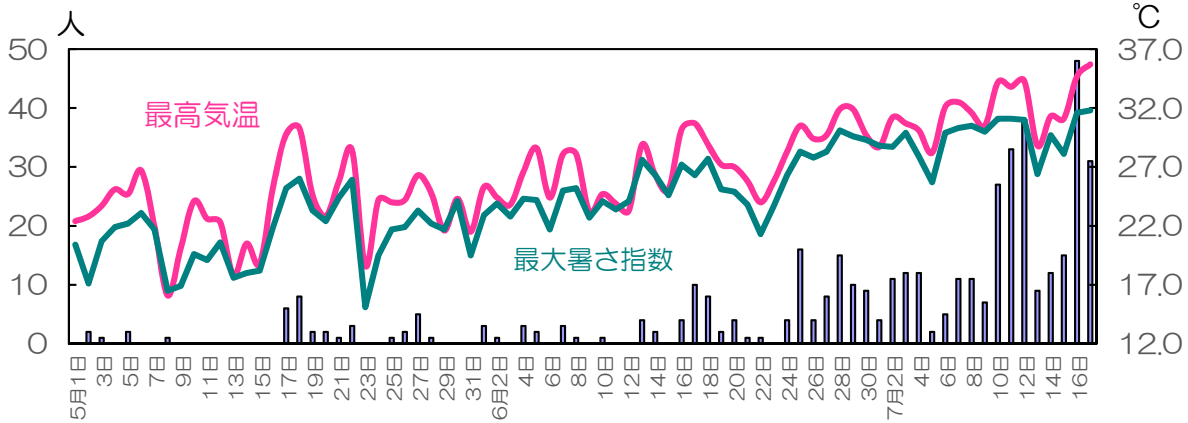


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和5年5月1日～7月17日までの搬送数（消防局データを使用）は、計441人（5月37人、6月116人、7月288人）でした。7月10日以降、最高気温が30℃（真夏日）・暑さ指数31℃（危険）を超えると、搬送数も25人以上/日と多くなっています（7月16日は、最高気温34.7℃・暑さ指数31.6℃で、48人でした）。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。



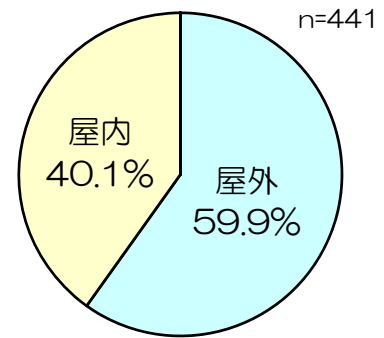
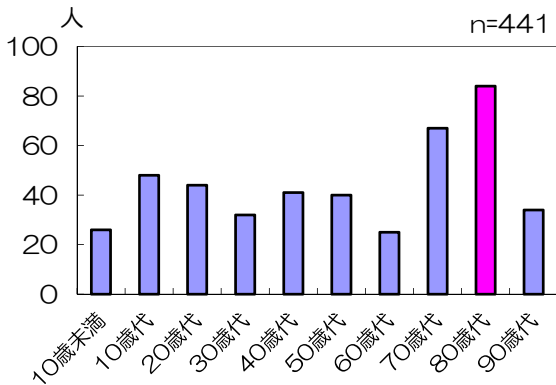
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

80歳代が84人（19.0%）で最も多く、次が70歳代で67人（15.2%）でした。

## <発生場所>

屋外59.9%、屋内40.1%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症61.2%、中等症36.3%、重症2.0%、重篤0.5%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が55.5%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

